

# クライミングの歴史

～なぜ人類は、落ちるとわかっていて岩に登るのか～

ぐっぼる クライミング講座 第1部

講師：由井辰美（クライミング歴30年以上）

## 今日の問い

---

あなたが今ジムで握っているカラフルな樹脂のホールド。  
あれは**たった数十年前まで存在しなかった**。

その前は——岩、ロープ、鉄の楔、そして「死」が隣にあった。

今のクライミングは、**240年分の試行錯誤・対立・発明の最先端**だ。

### この講座で分かること

- なぜ「登山」が「ボルダリング」にまで枝分かれしたのか
- パタゴニアとノースフェイスが**岩から生まれた**理由
- 日本にしかない「沢登り」という宝物
- そしてなぜ、五輪種目になったのか

# 第1章

---

## 1786年、人類は意味もなく山に登った

---

それまで山は「**怖いもの・避けるもの**」だった。神の領域、魔物の棲家。

- **1786年** — モンブラン（**4,808m**）初登頂
- 「そこに山があるから」——**実利のない登山** = アルピニズムの誕生
- この瞬間、人類史で初めて「**登ること自体が目的**」になった

□ 食料・狩り・移動 ← それまでの「登る」  
□ 純粋な挑戦・征服 ← 1786年以降の「登る」 ★ここが原点

**覚えておくこと**：最初、岩は頂上へ行くための「**邪魔者**」だった。  
やがてこの岩が、主役に躍り出る。

## 「岩そのもの」が目的になる（1900前後）

頂上ではなく、**途中の岩壁を登ること自体**に熱中する者が現れた。

地域	何が起きたか
<b>ザクセン</b> （独・エルプザンドシュタイン）	「道具に頼りすぎない」 <b>倫理</b> が世界最古に芽生える
<b>英国 湖水地方</b>	岩登りが一般市民の趣味へ大衆化
<b>ヨセミテ</b> （米・カリフォルニア）	数百mの一枚岩。後の聖地

ザクセンのクライマーは100年以上前に既に言っていた——  
「岩を傷つけてまで登るのは、登ったことにならない」

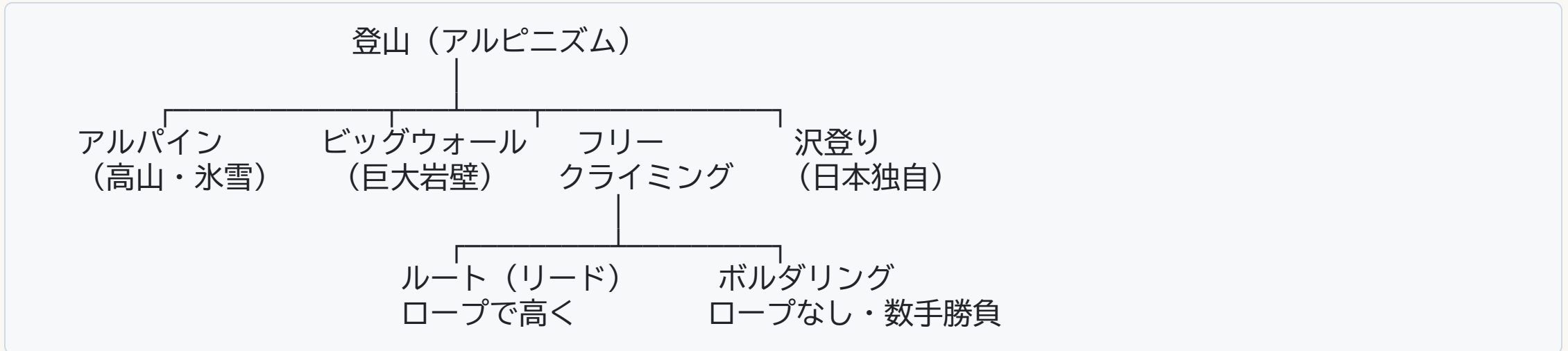
この「**美しく登るとは何か**」という問いが、歴史をずっと動かしていく。

## 第2章

---

## クライミングは「1つ」ではない

登山という幹から、目的と舞台ごとに**種目が枝分かれ**した。



初心者がジムで最初にやる「ボルダリング」は、実は一番"新しく純化した"枝。

## 枝① ビッグウォール：垂直の数日間

---

ヨセミテの **エル・キャピタン**（約 1,000m の一枚岩）に代表される世界。

- 1日では登れない。**壁の途中で吊られて眠る**（ポータレッジ）
- 1957～60年代、ヨセミテで爆発的に発展
- 大量の鉄の楔（**ピトン**）を岩の割れ目に打ち込んで登った

**そしてここに、後の大事件の種が蒔かれる——**

打って・抜いてを繰り返すうちに、**岩の割れ目がボロボロに破壊された。**

（→ 第4章のパタゴニア誕生秘話へ）

## 枝② フリークライミング：道具は「保険」だけ

「どこまで道具に頼っていいのか」という思想闘争の答え。

	エイドクライミング	フリークライミング
前進の手段	道具に体重を預ける	手足だけ
ロープの役割	登るために使う	落ちたとき止めるだけ

- 1970年代、ヨセミテの **ストーンマスターズ** 世代がフリーの価値観を世界へ
- 「ロープにぶら下がったら**負け**」という美学

登るのは自分の指と足。ロープは、死なないための保険。  
——この線引きが、今のスポーツクライミングの大前提。

## 枝③ ボルダリング：高さを捨て、1手に賭ける

---

ロープを使わず、**数手の難しさだけ**を全力で競う。

- 元は「本番ルートの練習」「順番待ちの暇つぶし」扱い
- **ジョン・ギル**（米・1950～60s）が**体操の動き**を持ち込み独立した思想へ
- 競うのは「**高さ**」ではなく「**1手の難度**」
- 分厚いマットの普及で、**誰でも安全に始められる入口**に

**今あなたがぐっぼるでやっているのが、まさにこれ。**

道具は靴とチョークだけ。クライミングの**最小単位にして最新形**。

## 枝④ 沢登り：これは日本の宝だ

---

世界に類を見ない、**日本で独自に発達した**クライミング。

- 沢・滝・釜（滝壺）を**水に濡れながら遡る**（＝シャワークライミング）
- 1980年代から本格化。決められたルートが**ない**
- 滝を登るか・高巻くか・釜を泳ぐか——**全て登る者の自由**

「下る」のがヨーロッパ発のキャニオニング。

「登る」のが日本発の沢登り。

日本には「神が宿る滝」を歩いて渡ることを**礼拝**とする文化があった。

スポーツになるはるか前から、登りは**日本人の生活と信仰**の中にあった。

# 第3章

---

## 同じ「登る」でも、文化が違う

	ヨーロッパ・アルプス	日本
舞台	4,000m級の氷雪・岩稜	低山・沢・花崗岩の岩場
思想の核	<b>征服・初登攀の荣誉</b>	<b>自然との一体・修行的</b>
独自種目	アルパイン／キャニオニング（下る）	<b>沢登り（登る）</b>
岩への態度	攻略すべき相手	畏れ敬う対象（聖地・滝）

- 西洋は「**人対自然**」、日本は「**自然の中に入る**」感覚が強い
- どちらが上ではない。**この差を知ると、登りの解像度が上がる**

ぐっぼるが世界中の岩を登るのは、両方の視点を体に入れるため。

# 第4章

---

## 主役を支えた「道具」の進化

クライミングの歴史は、そのまま**道具の発明史**でもある。

道具	役割	生まれた背景
ピトン（ハーケン）	岩の割れ目に打つ鉄の楔	ビッグウォール時代の主役
カラビナ	ロープを繋ぐ金属リング	墜落を止める要
<b>ナッツ／カム</b>	<b>打たずに挟む</b> 支点	岩を壊さないために発明 ★
クライミングシューズ	小さな突起に立つ専用靴	フリー化で精密さが必要に
マット	落下衝撃を吸収	ボルダリングの安全を支えた

★この「**打たない道具**」の発明が、ある世界的ブランドを生む——

## パタゴニア誕生秘話：罪悪感から生まれた会社

---

**イヴォン・シュイナード**。元はヨセミテのクライマー。

- **1957年** — 中古の鍛冶炉を買い、**自作のピトンを車のトランクで売り歩いた**
- **1965年** — トム・フロストと「シュイナード・イクイップメント」設立
- **1970年** — 全米最大のクライミング金物メーカーに

**だが、彼は気づいてしまった——**

自分のピトンが、愛するヨセミテの岩を**破壊している**。

- **1972年** — ピトン事業を自ら捨てる決断。代わりに**打たずに挟むアルミ製チョック**を発売
- カタログに「**Clean Climbing (岩を変えずに登る)**」の14ページの宣言を掲載
- 結果、チョックは作るそばから売れ、ピトン事業は消滅

**この環境思想がそのまま、後の "Patagonia" の DNA になった。**

## ノースフェイス誕生秘話：最も過酷な面の名

---

1966年、サンフランシスコ。

- **ダグ・トンプキンス**が銀行から **5,000ドル**を借りて創業
- 開店祝いで、あの **グレイトフル・デッド** が演奏した
- 社名の由来 = 山の中で**最も寒く・険しい「北壁 (The North Face)」**

一番楽な南面ではなく、**最も挑戦的な北壁**を社名にした。  
——挑戦を恐れない、というブランドの宣言。

- 創業者は2年後に株を売却 → その資金で**ESPRIT**を共同創業
- 後年は事業で得た富で**南米の大自然保護**に生涯を捧げた

※ **パタゴニアもノースフェイスも、出発点は「街のアパレル」ではなく「岩」だった。**

# 第5章

---

## 山の文化が、街のスポーツになった

年	出来事
2015	IFSC（国際競技連盟）が五輪入りを提案
2018	ブエノスアイレス・ユース五輪で初登場
<b>2020（実施2021）東京</b>	<b>五輪正式種目デビュー</b> （複合1種目）
2024 パリ	スピードが分離し <b>メダル数2倍</b> に
2028 ロサンゼルス	ボルダー／リードも分離。 <b>正式種目化</b>

- 東京五輪は「**スピード＋ボルダー＋リードの複合**」で1つの金メダル
  - → 専門が違う3種目を1人にやらせる**無茶**に批判殺到
- パリで改善、ロスでようやく**種目ごとに正しく評価**される形へ

**ジムの普及で「山に行かずに始められる」時代になった。だが——**

## 忘れてはいけないこと

---

ジムは、**外の岩へ出るための入口**だ。

自然の岩 (240年の原点)  
↓ 練習・育成の場として  
インドアジム ← 今ここ  
↓ いつか  
また自然の岩へ還る

- 樹脂ホールドの1手も、たどれば**モンブランから続く文化の最先端**
- グレード (V0~V17 / 5.6~5.15) は**数字を競う道具**であって目的ではない

「V1が登れた」より「あの1手がハマった瞬間」を喜べる人が、一番伸びる。

## まとめ：あなたは240年の続きを登る

---

時代	出来事	キーワード
1786	モンブラン初登頂	「登るために登る」誕生
1900前後	岩自体が目的に	美しく登る倫理
1950s～	ボルダリング独立	ジョン・ギル
1970s	フリーの倫理確立	道具との線引き
1972	パタゴニアの原点	Clean Climbing
1966	ノースフェイス創業	北壁＝挑戦の名
2021	五輪正式種目	街のスポーツへ

# さあ、登ろう

歴史を知った今、最初の1手の意味が変わる

次回 **第II部**：日本のクライミング史と、ぐっぼるの位置づけ

ぐっぼる / [goodbouldering.com](http://goodbouldering.com)